

「スポーツ×農業」を全国に -フレッサ福岡をモデルに-

東北学院大学教養学部
スポーツマネジメント研究室



スポーツ界の危機
東京オリンピックが注目される中で・・・



スポーツの課題

実業団チームの衰退
セカンドキャリア問題
成人の運動実施率低下

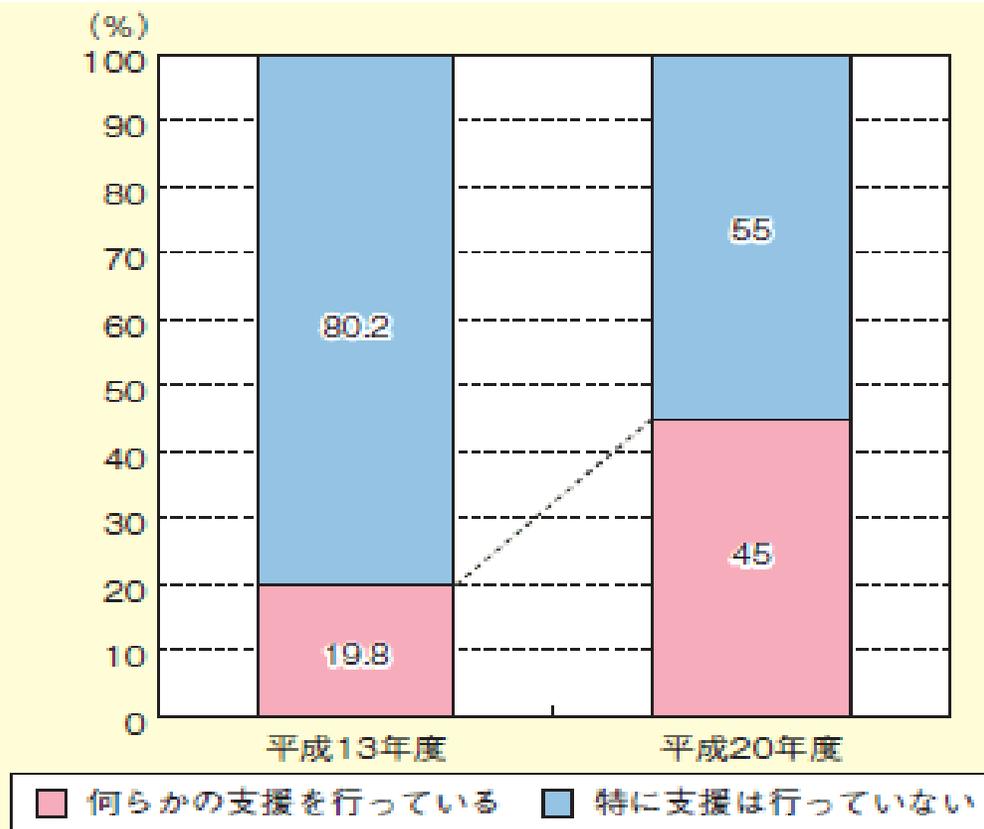


不景気によって企業がチームを手放す
環境(組織や設備)が整っていない



実業団チームの実態

図1 実業団チームの変遷



(出典) 文部科学省「JOC強化指定選手が所属するチーム及び日本トップリーグ機構加盟リーグに所属するチームに関する実態調査」(平成21年)

まだ半分
以上も...



農業による解決策 スポーツチームを農業が助ける

農業がスポーツを支えるメリット

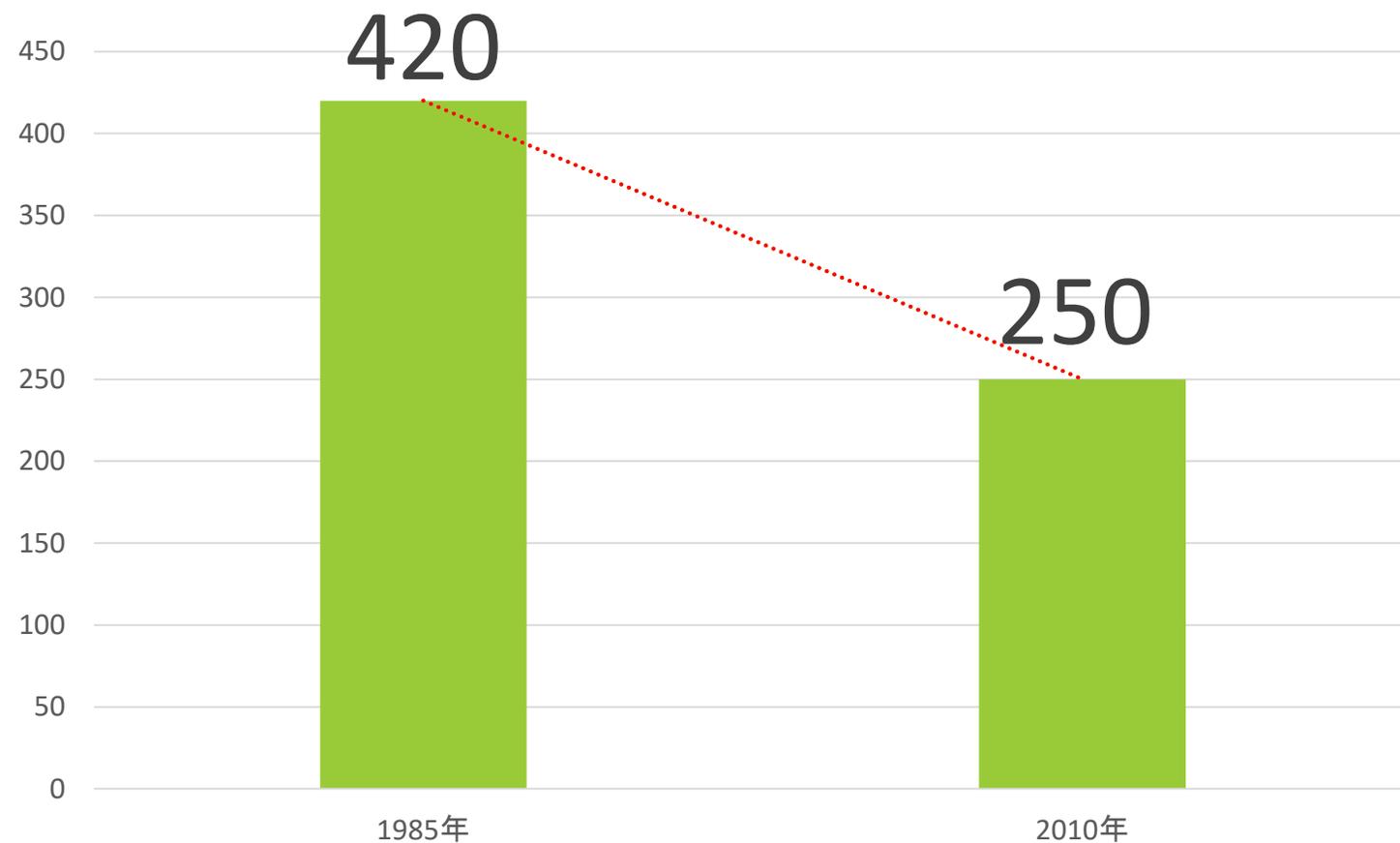
- 不景気にも対応できる、**転勤がない**
⇒ 安心してスポーツに打ち込める体制
- 時間の融通が利く⇒ 練習時間を確保できる
- 独立出来る ⇒ セカンドキャリアが保証される
- 学力に左右されない** ⇒ スポーツに熱中してきてもOK
- 「食」に対する意識向上→効率の良い身体づくり



しかし・・・

農業の課題(実態)

図2 農家数



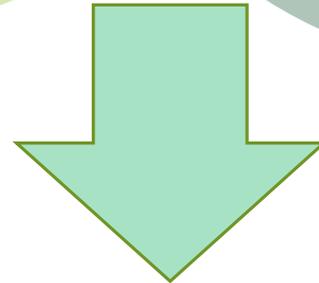
農業人口が**激減**している



農家の後継者不足

魅力がない
儲からなそう

少子高齢化
若者の都市部への流出
野菜消費の減少



農業就農人口減少



両方の課題を同時に解決
スポーツと農業を掛け算しよう

スポーツ
「職場(チーム)が
欲しい」

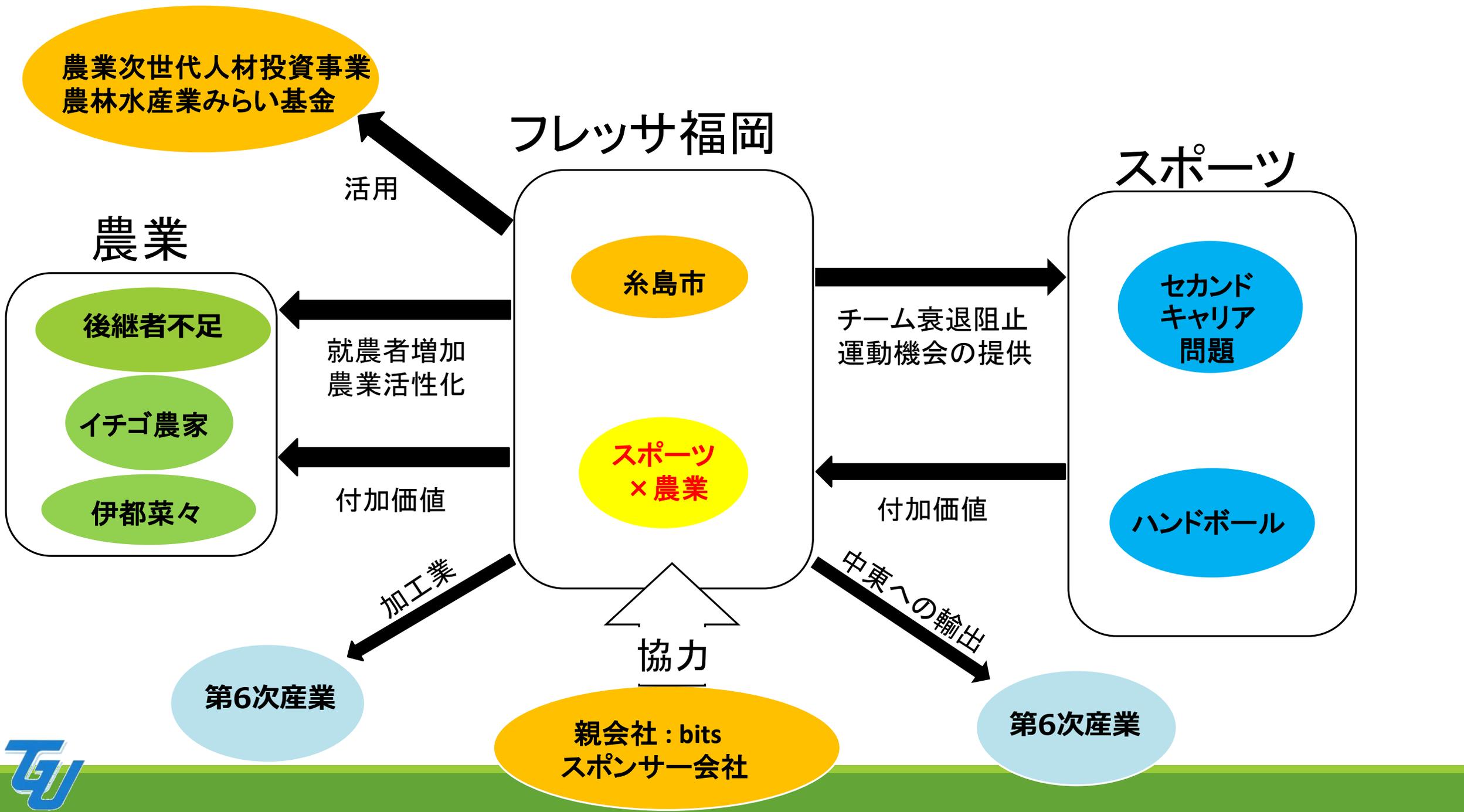


農業
「労働者(後継者)が
欲しい」

事例紹介：フレッサ福岡

- ・福岡県糸島市でJHLを目指す社会人ハンドボールチーム
- ・元教員、大学リーグの得点王、パティシエになる夢を持つ選手など様々
- ・昼は農家、夜はハンドボール
- ・スポーツの課題（セカンドキャリア）
農家の課題（労働者不足）を同時に解決





農業次世代人材投資資金（旧青年就農給付金）

<準備型>

次世代を担う農業者となることを志向する者に対し、**就農前**の研修を後押しする資金を交付

- ・対象者：原則45歳未満で就農する方
- ・交付金：**年間150万**
- ・交付期間：**最長2年間**
- ・交付要件：研修終了後、独立・自営就農する場合は就農から5年以内に認定新規就農者等になること



<経営開始型>

次世代を担う農業者となることを目指す者の経営確立を
支援するため資金を交付

- ・対象者：**独立**、自営就農時の年齢が原則45歳未満の認定新規就農者
- ・交付金：**年間最大150万円**
- ・交付期間：**最長5年間**
- ・交付要件：研修終了後、交付期間と同期間営農を継続すること



農林水産業みらい基金

- 創意工夫ある取組みで、課題解決に挑戦する
地域の農林水産業者への、「あと一歩」の後押し
→地域活性化、担い手増加、収益力強化を目指す
- 必要条件・書類を揃え、厳正な審査により支給される
- 申請額の上限・下限は設定していない
- 事業期間: 最長3年

フレッサ福岡の活躍

○メディア出演(テレビ、ラジオ、新聞、情報誌など40件)

○試合の成績

・福岡県ハンドボールクラブ選手権優勝

・九州クラブ選手権3位

・**ジャパンオープントーナメント準優勝**

○地域・イベント

・ハンドボール教室、トークショー

・清掃活動、マラソンボランティア

・九州物産展に出店(フレッサジェラートなど)



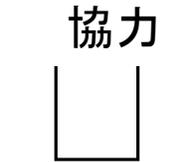
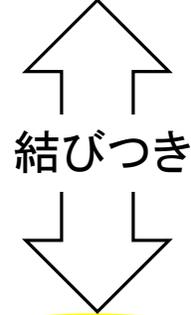
政策提言

宮城で「スポーツ×農業」を実現させ、
全国へつなぐ

農業



地域



スポーツ×農業



スポーツ



課題解決策

スポーツの選択

課題解決策

活用

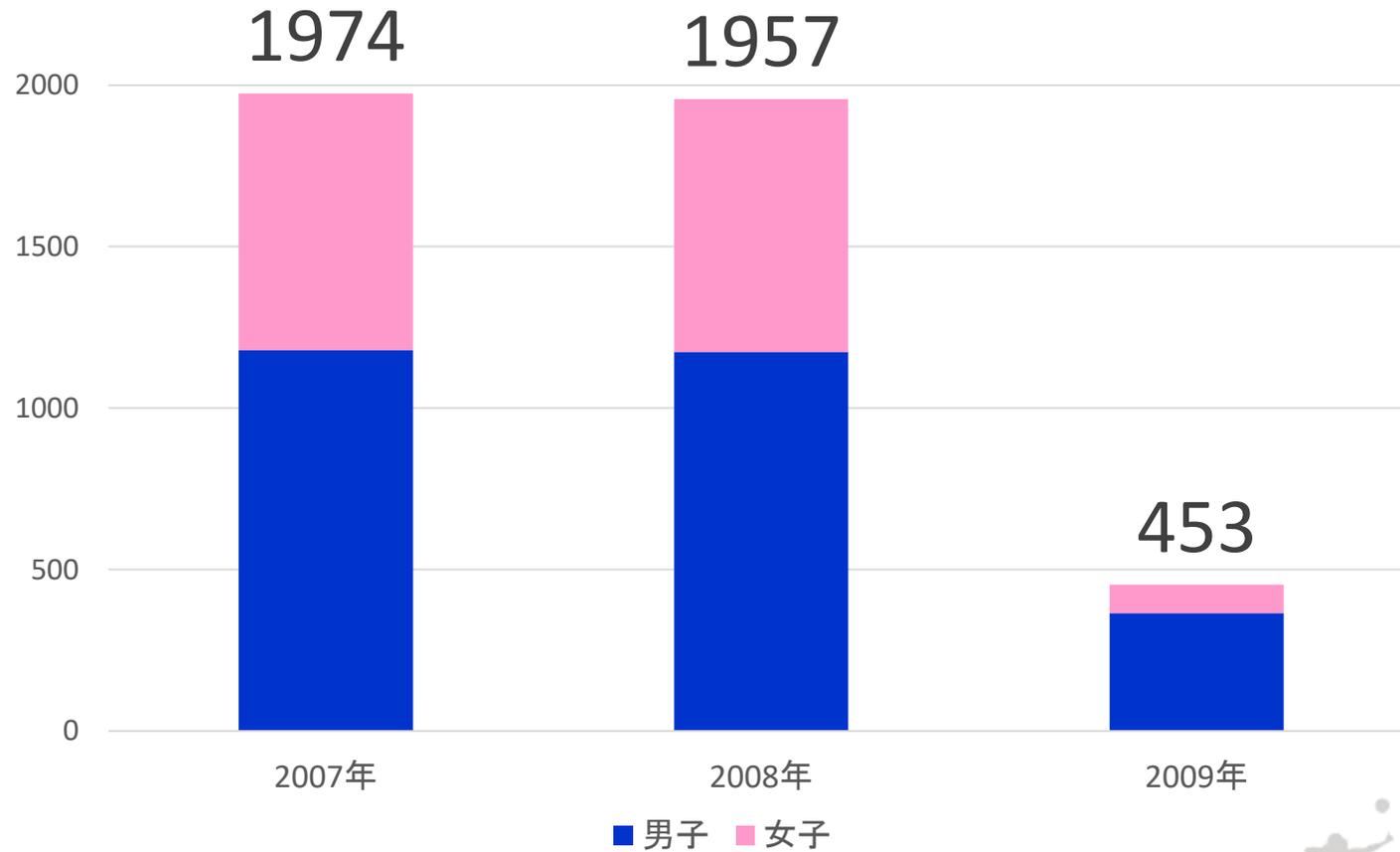
農林水産業
みらい基金

農家・農業法人
スポンサー会社
行政



スポーツ（バレーボール衰退）

図3 全国実業団チーム登録数



宮城県は男子2チーム、
女子は0！
⇒宮城のバレーを
盛り上げよう！



農業（吉田いちご農園）

- ・労働者不足・震災による後継者不足
- ・1日ごと効率の良い栽培を1年間安定的に行う
→安定した所得でないとパートが転職してしまう
- ・技術の進歩により「朝早く、夜遅く」という
農家のイメージが変わってきた
- ・農家を雇う**起爆剤**のような案を求めている



具体的な試案
「オールバイエン亘理」を設立



設立の手順(1)

①背景(例): 仙台ベルフィーユ廃部

- ・代表者「バレーボールチームをつくろう」→クラブ設立へ
- ・一般社団法人として設立(目的・運営が自由、所轄庁の監視下に置かれない)

②活動拠点を選定

- ・「宮城の湘南」と呼ばれる亘理(地理や気候の要素も考慮)
 - ・亘理町のいちご農家「労働者・後継者ほしい」(都道府県が認める研修先)
 - ・農業法人(親会社)を確立(アルバイト先・経営の学び場)
(・競技や地域によっては練習場所の有無を考慮する)
- ※亘理郡には体育館4つ(月ごとの予約制)

設立の手順(2)

③選手(就農者)を募集

- ・トライアウトによる実技試験、農業のやる気を面接試験

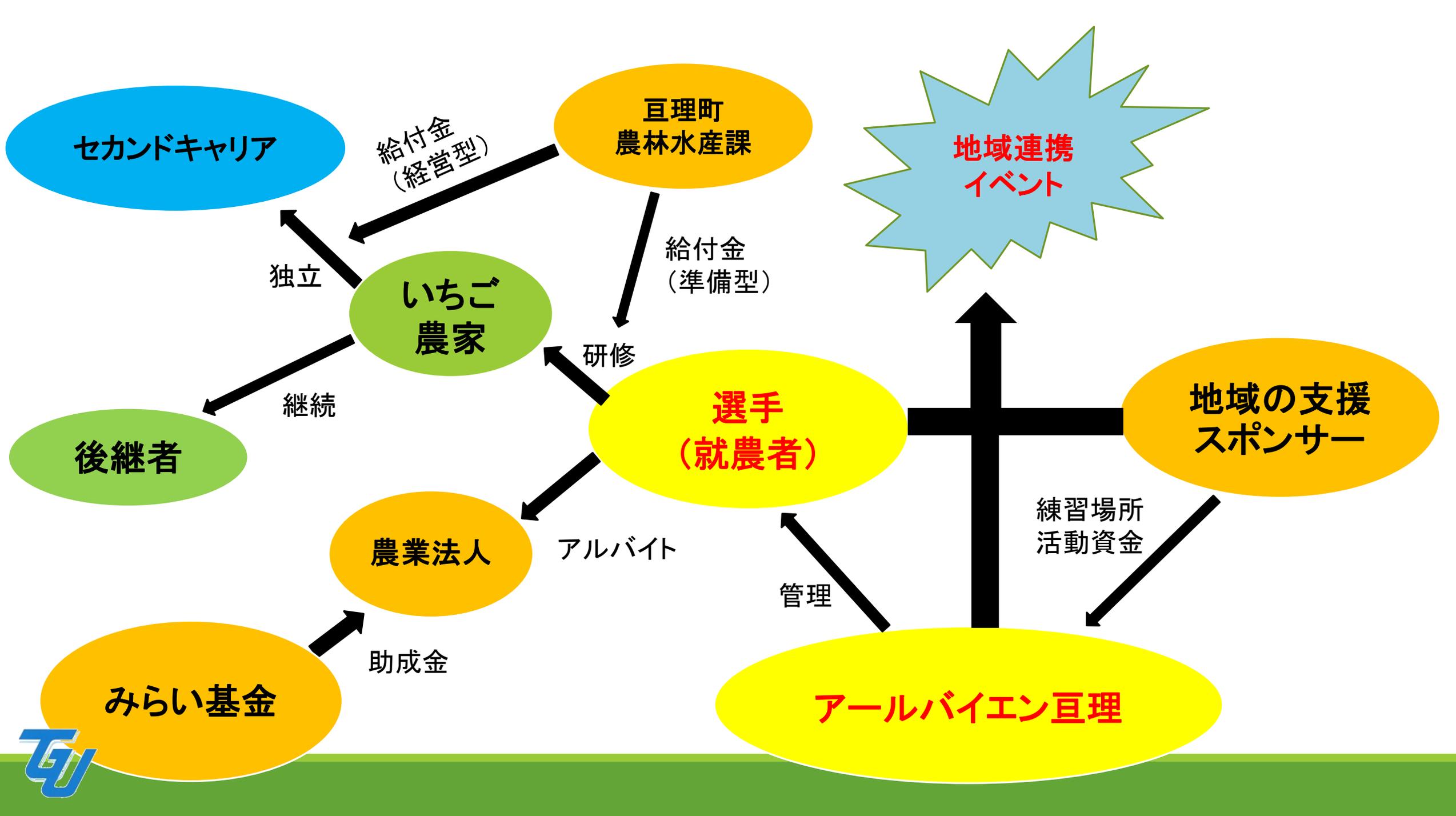
④活動資金を依頼

- ・亘理町農林水産課から農業次世代人材投資資金
- ・一般社団法人 農林水産業みらい基金から助成金
- ・地域のスポンサーからのチーム運営費

⑤始動

概要

- ・チーム・農業法人・農家の**意気投合**が最大のポイント
〔グレーな部分(ex: 研修費)を志でカバー〕
- ・選手(就農者)は2年間、農業の研修・アルバイト
給付金年間150万＋農業法人バイトで150万→**年収300万**
- ・考えられる課題は、スポンサーの確立が容易でないこと
(作物によって、自然災害やスポーツの大会期間との両立難)



セカンドキャリア

給付金
(経営型)

亶理町
農林水産課

地域連携
イベント

独立

いちご
農家

給付金
(準備型)

研修

継続

後継者

選手
(就農者)

地域の支援
スポンサー

継続

農業法人

アルバイト

練習場所
活動資金

管理

助成金

みらい基金

アールバイエン亶理



全国の地域連携イベント(年に1~2回ほど)

地域 vs 地域

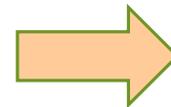
- ・抽選で対戦するチーム(地域)を決める
⇒勝ったチームは来シーズンの敵地の試合会場で
自地域の農産物を宣伝、販売権をGET!
- ・選手の農作業に対するモチベーションUP!



全国の方々に、各地方の農産物を知ってもらえる!

会場では…

- ・チームの農産物の他に地域の特産品(ex.はらこ飯)を販売
⇒地域ぐるみでイベントを盛り上げる
- ・各チームのグッズ(ex.タオル、ユニフォーム)を販売
⇒ファン同士の交流の場にも(ex.バイエン女子)
- ・イベントの様子をSNSによって拡散→地域のPRに!



各地域で創意工夫を凝らし、より地域性が高いものへ!

その他のアイデア

農福連携

スポ婚イベント

漁業への応用

まとめ
「スポーツ × 農業」の実現によって

両立した
課題解決

地域との
良好な関係

スポーツ×農業

アマチュア
スポーツの振興

食料自給率の上昇

参考文献

・農林水産省 農業センサス

<http://www.maff.go.jp/index.html>

・笹川スポーツ財団 スポーツライフ・データ2016

<https://www.ssf.or.jp/research/sldata/tabid/327/Default.aspx>

・農林水産業みらい基金

<http://www.miraikikin.org/activities/agriculture/biomt.html>

・フレッサ福岡 公式サイト

<http://fresa-fukuoka.jp/>

・文部科学省

http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab201001/detail/1312141.htm